



## 事業のご報告

ご支援・ご協力ありがとうございました



あづめっちゃん参加団体との事前研修

## ごあいさつ

皆様より本事業にご寄付を頂いてから早一年近くがたちましたが、お変わりなくお過ごしでしょうか。「あづめっちゃん」募金キャンペーンは、東日本大震災から2年が経過した2013年3月、被災地・宮城県の今を「伝えたい」気持ちと、時折聞かれる「東北のために何かしたいが、何をすればいいかわからない」という状態に橋を架けられないかと考えたことから始まりました。インターネットの他、東京と仙台で各団体が自らの言葉で現在の状況と自分たちの活動について語る場をつくるなど、弊財団が仲介役となり、地域で課題解決のために懸命に事業をし資金を必要としている団体と、信頼できる活動をしている団体をお探しの方をつなぐことができないかと取り組んでまいりました。おかげさまで、多くの皆様にご関心とご支援を頂くことができましたこと、ここに深く御礼申し上げます。

この度、ご支援を頂いた5つの団体の取り組みと成果についてまとめた報告書を作成しましたのでお送りいたします。一人ひとりの力と想いを集めつないでいくことで、地域に新たな一歩を踏み出し、新しい風を吹かせることができたことと改めて実感いたしました。2014年にも第2期としてキャンペーンを実施する予定ですので、引き続きご関心とご支援をいただければ幸いです。

あづめっちゃん運営事務局  
一般財団法人 地域創造基金みやぎ  
専務理事・事務局長 鈴木 祐司

## 目次

ごあいさつ	1
概要・寄付集計報告	2
参加団体活動報告	3
ダンス幼稚園実行委員会	3
(一社) キッズ・メディア・ステーション	4
(特活) Switch	5
(特活) 笑顔のお手伝い	6
(特活) 互理いちごっこ	7
ふりかえり	8
寄付・イベント参加の皆様より	9
さなぶりファンドの役割	11
イベント報告・メディア掲載	12
会計報告・さなぶりファンドとは	13

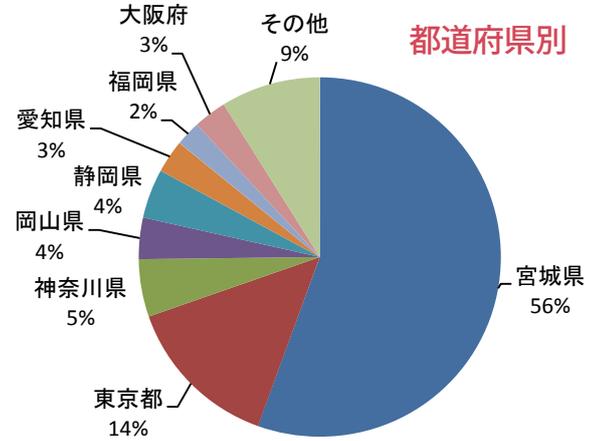
## 寄付集計報告

被災地・宮城の課題解決のために活動する5団体へ、全国より寄付が届きました。ありがとうございました。

寄付総額 **2,166,352 円** 寄付件数 **135 件**

### 団体別寄付金額

ダンス幼稚園実行委員会	351,270 円
(一社) キッズ・メディア・ステーション	371,270 円
(特活) Switch	681,270 円
(特活) 笑顔のお手伝い	376,270 円
(特活) 亘理いちごっこ	386,270 円



## あづめっチャ 第1期の概要

あづめっチャとは、東日本大震災から2年が経った被災地・宮城県の世代ごとの課題と、その課題を解決していこうとする取り組みを伝え、寄付を募るプロジェクト。宮城県内で活動する5団体が参加しました。



- ①【テーマ：未就学・幼児】ダンス幼稚園の実施  
ダンス幼稚園実行委員会（仙台市）
- ②【テーマ：子ども】石巻日日子ども新聞の制作  
一般社団法人 キッズ・メディア・ステーション（石巻市他）
- ③【テーマ：若者】若者の就労支援  
特定非営利活動法人 Switch（石巻市他）
- ④【テーマ：中高年】外国人妻の日本語教室  
特定非営利活動法人 笑顔のお手伝い（気仙沼市他）
- ⑤【テーマ：高齢者】高齢者の見守り傾聴活動  
特定非営利活動法人 亘理いちごっこ（亘理町他）

### 第1期のスケジュール

2012年

- 11月 参加団体の公募を開始しました。公募説明会を仙台・気仙沼で開催しました。

2013年

- 1月 事務局審査・外部審査会を経て、テーマに合致する5つの参加団体が決定。

- 2月 第一回となる参加団体の集合研修。お互いの活動を知り、目的を共有しました。

- 3月 寄付の受け付けを開始（～5月末）。東京や仙台でイベントや活動発表を行い、活動をアピールしました。

- 6月 寄付の集計を行い、各団体へ助成を開始。助成金を活用した事業が開始しました。

- 12月 各事業の報告書やヒアリングをもとに、寄付者の皆様への報告書を制作。

活動報告1 テーマ 未就学・幼児

ダンスを通じて気持ちを表現できました

ダンス幼稚園実行委員会

事業地：仙台市内

助成額：327,000円



▲タイ舞踊のダンサーと触れ合う親子たち（左）、夕方開催で照明も工夫（右上）、タップダンスに興味津々（右下）

寄付が形に！

ダンス幼稚園が2回開催され、のべ450人以上が参加しました

宮城県仙台市内の幼稚園で「ダンス幼稚園」を開催しました。皆さまからの寄付金は、音響機材のレンタルやダンサーの交通費の一部などに使われました。2013年4月・9月開催の2回には、のべ70人以上のダンサーやスタッフがダンスと音楽で溢れる幼稚園をつくりあげ、のべ450人を超える子どもや保護者・地域住民の方と一緒にダンスと音楽を楽しむことができました。9月のダンス幼稚園は、初めての夕方開催。誰もがなじみのある盆踊りを取り入れたところ、親子で一緒に参加しやすいこともあって会場全体の一体感が生まれ大成功。9月に実施したダンス幼稚園は4回目の開催でしたが、初めて開催した時には離れて鑑賞するだけだった子どもたちも、自由に気持ちを表現し、体いっぱいダンスを楽しんでいる様子が見られるようになりました。また、事前の小道具づくりや地域への呼びかけに子どもが自主的に参加するようになりました。子どもたちの輪の広がり、地域住民と子どもとのつながりを感じています。

声

ダンス幼稚園参加者より

- 普段ダンスになじみの薄い親子ですが、幼稚園でダンス、という異空間を味わうことができ、とても楽しい時間でした。娘は何週間か経った今でも「またダンス幼稚園やりたいねえ」と言っています。
- 3回目の参加。大人が別なダンスを見ていても、子どもは一人で楽しく踊っていました。成長に感動！ 笑顔のある一日になりました。

団体の取り組み

体を使って気持ちを表現するサポート

小さな子どもは言語表現が発達途中にあり、自分の気持ちをうまく言葉で表現することができません。震災のつらい体験を内に閉じ込めたままになり、周りの大人も分かりづらい状況です。そこでダンサーが幼稚園に出向き、幼稚園をダンスや音楽で溢れる遊園地のような場所に。子どもたちが体を使って気持ちを表現できるようサポートします。

寄付者の皆様へ

ダンス幼稚園  
実行委員会  
代表 千田 優太



皆さまのご支援により、多くの被災した子どもたちが楽しい時間を過ごすことができました。震災から2年半が過ぎ、日常を取り戻しつつあるように見えますが、今も起こる余震や津波警報により、あの時の恐怖が思い出されることが続いています。目に見えづらい、子どもの心の傷やストレス。ダンスや音楽を通じ、元気を取り戻す手助けを継続してまいります。

## 活動報告2 テーマ 子ども

## 新聞を通じて「石巻の今」を伝えました

(一社)キッズ・メディア・ステーション  
事業地：石巻市・東松島市・女川町  
助成額：345,000円



▲新聞づくりのワークショップ (左)、宮崎県の子どものワークショップ (右上)、子ども記者による取材メモ (右下)

寄付が  
形に!

## 石巻日日こども新聞第6号・第7号が発行されました

「石巻日日こども新聞」第6号・第7号の制作費に、皆さまからの寄付金が活用されました。子どもたちが新聞制作に必要な技術や過程を学ぶため、「質問のしかた」「レポーター研修」などのワークショップが週1回開催されました。子ども記者たちはワークショップの経験を生かし、地元企業や復興活動に取り組む団体への取材を実際に行い、被災地の現状を記事にして伝えました。また、宮城県へ訪れた乙武洋匡さんや、さとう宗幸さんなど著名人へのインタビューも行い、様々な角度から「石巻の今」を伝えることができました。ワークショップへの子どもたちの参加は、少しずつ増え続けています。回を重ねるごとに子どもたちの表現力が多様化し、文字、写真、絵画といった新聞に発表できる表現方法にとどまらず、紙芝居劇、音楽、立体作品のような、紙面に収まらない表現も生まれています。そこで、2013年11月には石巻で高校生記者の写真展を開催するなど、様々な形で子どもの表現をサポートしています。

声

## 子ども記者の保護者より

- 人前で堂々と自己紹介ができるようになりました。
- 家庭内での話題が増えました。
- 他の学校の友達ができ、毎週土曜日が楽しみようです。
- 取材を通して色々な経験ができるので、以前に増して好奇心が旺盛になったように感じています。

団体の  
取り組み

## 風化を防ぎ、子どもの伝える力を育む

東北以外での震災の記憶の風化がどんどん進んでいます。また、震災による大きな影響を受けた子どもたちがつらい経験を乗り越えるためには、想いを表現することが必要ではないかと考えます。そこで、子どもたち記者が中心となってつくる「石巻日日こども新聞」の制作を通じ、子どもたちの伝える力を育み、震災の風化を防ぎます。

## 寄付者の皆様へ

(一社)キッズ・  
メディア・ステーション  
代表理事 太田倫子



皆様からの寄付により取材活動の幅が広がりました。発行部数は創刊当初の2万部から、第7号は5.5万部と大幅に増え、多くの方にお届けできました。新聞をきっかけに、宮崎県の子どものみならず、宮崎県外避難者や、横浜市の子どものみならず、横浜市との交流イベントなどを開催することになり、地域を越えてたくさんの方とつながることができました。

活動報告3 テーマ 若者

若者たちが新たな一歩を踏み出しました

(特活) Switch

事業地：仙台市・石巻市・東松島市

助成額：633,000円



▲パソコン講座の一コマ（左）、中小企業への就業体験取材（右上）、本人・家族・支援者などを対象にしたワークショップを開催（右下）

寄付が形に！

こころの不調を乗り越え就職・就労する若者に伴走しました

若者たちがこころの不調を乗り越え次の一歩を踏み出すサポートのため、寄付金が使われました。事業期間中に「認知行動療法プログラム」を6回実施し、16人が参加。ストレスを感じた時に対処する方法などを学びました。また、期間中にのべ約20人が個別相談に訪れ、自分と向き合い新たな一歩を踏み出す準備を始めています。2013年6月には仙台市の拠点に続き、石巻市に「ユースサポートカレッジ石巻 NOTE」を開設。高校生を対象とした地元企業でのインターンシッププログラムを企画、受け入れ企業の開拓と専用WEBや冊子の作成を行いました。さらに、石巻市内の全高校（9校）で説明会を開催。就職を希望する若者と地元企業との橋渡しに取り組んでいます。オープンから4カ月の間に、就職者1人、学び直し通信制高校へ編入した生徒1人を輩出。伴走型支援の基盤を構築することができました。

若者たちが地域で生き生きと働くことができるよう、様々な角度からアプローチを続けています。

声

パソコン講座に参加した若者より

- ・パソコン講座で学んだ内容をもとに、今後は、現在のグローバル化に対応したITの活動に生かしていきたいと思います。将来は研究分野の仕事に就きたいです。
- ・講師が丁寧に説明してくれたことで非常に分かりやすかったです。将来はホームページ作成や、通信販売を行う仕事をしてみたいです。

団体の取り組み

若者に寄り添い、就労に向け伴走

震災によって街は大きな打撃を受けましたが、そこに住む若者のこころが折れることはありません。こころに不調を持つ若者も地域社会の中での自らの役割を体感し、経済的、精神的に自立できるきっかけを作りたいと考えています。一人ひとりに合った仕事に就けるよう、一緒に考える同士として伴走型のプログラムを提供します。

寄付者の皆様へ

(特活) Switch  
理事長 高橋 由佳



震災後3年目を迎える時期に、多くの皆様からご支援をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。しかし一方で、ここ被災地ですら「復興」という言葉も含め、風化が進んでいる現状を感じています。

私たちは、未来ある若者が安全で安心な暮らしを続けていく事ができるよう、これからも活動を続けて参ります。皆様もどうか見守り続けてください。

## 活動報告 4 テーマ 中高年

## 外国人妻たちが自立の一步を踏み出しました

(特活) 笑顔のお手伝い

事業地：気仙沼市・南三陸町・石巻市・仙台市

助成額：350,000 円



▲マンツーマンの教室も (左)、石巻で開催された日本語教室の様子 (右上)、ホームヘルパーの資格を取得 (右下)

寄付が  
形に！

## 日本語教室・ホームヘルパー教室・パソコン教室を開催しました

外国人妻たちが自立した生活を送るためのサポートのため、寄付金が活用されました。日本語教室・ホームヘルパー教室・パソコン教室を南三陸町や石巻市で開催。2013年4月～9月に開催した南三陸での日本語教室は、のべ30人が受講し、外国人が苦手とする漢字や発音などを学びました。2013年12月に実施された「日本語能力試験」には、1級1人、3級3人の計4人が受験に臨みました。

仲間内で固まりがちだった外国人妻たちが、講座を通じて様々なつながりが生まれ、毎回のように友人を連れて参加するように。中国・韓国・フィリピン・タイ・インドネシア・ペルーなど、多国籍の教室運営ができました。また、パソコン講座には子どもたちも興味を示し、親子での参加も多く見られました。教室運営の他に、個々の家庭を訪問して面談を行ったり、母国語の通訳者と一緒に問題の解決に取り組むなど、一人ひとりに寄り添ったきめ細かいサポートも継続しています。

声

## 日本語教室（石巻開催）の参加者より

インドネシアから、日本にきて5ねん。今までは、じぶんでにほんごをべんきょうしました。うんてんめんきょは、28回しけんをうけて、やっとうかりました。今日がはじめてのさんかです。3さいのふたごの子どものために、託児室をよういしてくれて、ありがとうございます。もっと日本ごをべんきょうして、しごとをしたいです。

団体の  
取り組み

## 外国人妻の日本での生活をサポート

宮城県には多くの外国人が住んでいて、そのうち約30%が、日本人男性と国際結婚した外国人妻と言われています。そうした方が抱える大きな問題は、言葉の壁。震災により家族や財産を喪失し、日本での生活がますます困難になっています。そこで、外国人妻たちが仕事に就き自立できるよう、日本語教室などを開催しています。

寄付者の皆様へ

(特活)  
笑顔のお手伝い  
理事長 千葉 義信



いまだ被災地では、多くの課題を抱え復興途中にあります。外国人被災者の方たちも、一人ひとり希望を持ち、地域参画に積極的に取り組んでいます。

外国人妻たちが日本語を習得することで、コミュニケーション能力が高まるだけでなく、就労機会が広がります。そして地域の担い手として自然と地域に溶け込み、多様な方が共生する社会の一步になると考えています。

活動報告5 テーマ 高齢者

孤立しがちな高齢者たちの交流が増えました

(特活) 亘理いちごっこ  
事業地：亘理郡亘理町、他  
助成額：359,000円



▲お茶のみサロンの様子(左)、仮設住宅を一軒一軒訪問(右上)、高齢者を中心とした憩いの場に(右下)

寄付が  
形に!

傾聴活動の実施、お茶のみサロンを開催しました

皆さまからの寄付は、仮設住宅に訪問し話を聞く「お話聞き隊」活動、亘理町外への避難者のためのお茶のみサロンにおいて活用されました。お話聞き隊では、亘理町や岩沼市にある仮設住宅などを訪問。親子や夫婦揃って話を聞くこともありましたが、ほとんどが一人。孤立しがちな高齢者を中心に、お話聞き隊活動やお茶のみサロンを通じて交流する機会を継続してつくることができました。

お話し聞き隊の活動を始めた当初は、顔を合わせて話をすれば十分という感じがありましたが、今は次第に心の奥底にしまいこんでいた気持ちを表すようになっていきます。「震災直後は話すことができなかったが、今だから聞いてほしいことがある」「津波で流されていく子どもたちを助けることができず、今も申し訳ない気持ちで過ごしている」など、気持ちを表現することでつらい体験を乗り越えようとする様子が見られます。また他県の大学生がボランティアとしてお話聞き隊活動に参加するなど、地域外とのつながりも生まれました。

声

お茶のみサロン参加者より

- 家に一人でいると話し相手がいないので、月に一度このお茶のみサロンに来て、話して笑うことができ嬉しいです。
- 話をするだけでなく、軽いスポーツや歌など、様々な活動をみんなと楽しむことができ嬉しいです。
- こうやって気にかけてもらえることが何より励みになります。

団体の  
取り組み

地域で支え合い、つながるサポート

「震災体験が頭から離れない」「仮設住宅の生活に慣れない」など、被災者たちが抱える様々な不安。外に出るきっかけがなく一人で抱え込んでしまうことを防ぐため、仮設住宅などを一軒一軒訪問し話を聞く「お話聞き隊」活動をしています。また、亘理町を離れ仙台市や名取市で避難生活をしている人のためにお茶のみサロンを開催しています。

寄付者の皆様へ

(特活)  
亘理いちごっこ  
代表理事 馬場 照子



被災された方々の状況や心境は様々で、復興が進む亘理町においても、皆さんの心の復興にはまだまだ時間がかかると感じながらの活動です。これからも、心に沿う活動をニーズに応じて柔軟に展開していきたいと考えています。今後は亘理いちごっこ敷地内のトレーラーハウスにて、お料理サロンなどの活動を開始予定です。機会があればぜひ遊びにいらしてください。

## ふりかえり・参加団体より～あづめっちゃんに参加して～

**ダンス幼稚園実行委員会** 研修やアドバイスがあり、事務局に寄り添っていただきながら活動出来たことが励みになりました。ラジオやロータリークラブでのPR等は今まで機会がなかったので、団体として成長を感じています。また、普段出会えない分野の方とお話しでき、新たな発見が多く勉強になりました。

**(一社)キッズ・メディア・ステーション** 他の団体との情報交換や問題点の共有ができました。また、プレゼンテーションの機会が多く、団体のプロジェクトを客観的に見直すことができました。外部の審査に通ったプロジェクトであるということで、呼びかけに信用力が増したように思います。

**(特活)Switch** あづめっちゃんに参加したことで、普段直接業務に関係しないスタッフが、地域における団体の立ち位置を理解し、積極的に寄付の呼びかけに参加するようになりました。東京でのイベントの反響が大きかったので、もっと県外での広報活動が必要だと思いました。

**(特活)笑顔のお手伝い** 団体内の意識の変化が大きかったように思います。寄付は呼びかけないと集まらないと実感しました。あづめっちゃんに参加したことで、団体の会員募集に取り組むようになりました。今後も被災地からの発信を続けていかなければと思います。

**(特活)亙理いちごっこ** 普段から様々な手段での情報発信は心がけていましたが、自分たちだけでは限界があり、他団体と一緒に取り組むことで大きな力になりました。facebookの研修等、身近なのに知らないことも多く身になりました。あづめっちゃんを通して良い縁をいただけたことに感謝しています。



## ふりかえり・審査員より～地域におけるあづめっちゃんの役割～

今までの宮城より、もっと素晴らしい宮城を  
茂木 宏友 氏 / 公益社団法人仙台青年会議所 2014 年度特別顧問

あづめっちゃんは、今までの宮城よりもっと素晴らしい宮城をつかっていくための活動。今後もさなぶりファンドや団体の皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。審査ではずいぶん厳しいことも言いましたが、支援を呼びかけるために重要になるのは、具体的なデータや根拠を提示し、団体の活動によってどのように変化するかを見せることだと思いました。



参加団体の活動自体がメッセージ役となり、震災の風化を防ぐ  
佐藤 理絵 氏 / 株式会社河北新報社 教育プロジェクト 事務局長

震災の風化が叫ばれていますが、被災地が今どんな状況にあるか具体的なイメージが伝わらないと感じています。しかし、あづめっちゃんのキャンペーンは参加団体の活動自体がメッセージ役になり、地域の課題を伝えられたように思います。イベント参加者からは「被災地の状況が分かった」などの意見があり、風化を防ぐ大きな役割を担っていると実感しました。



地域の課題解決に向け応援することで、巡りめぐって自分のことに  
小関 裕 氏 / 富士ゼロックス宮城株式会社 マーケティングサポート部 部長 兼 営業推進部担当部長

それぞれの団体が掲げるテーマは一部の領域の課題に見えがちですが、あづめっちゃんのテーマは全ての人に関わること。例えば「Switch」が取り組む心の問題ですが、日本では企業で働く4%の人が心の負担を抱えていると言われていています。一人ひとりがそれぞれの立場で地域の課題を応援していくことが、巡りめぐって自分のことに関係してくるのではないかと思います。





## 寄付・イベント参加の皆様よりいただいたメッセージ

あたたかいお気持ちありがとうございました。ここではスペースの都合上一部しか掲載できませんが、全てのメッセージを参加団体の皆さんにお届けしました。

### 【あづめっちゃへのメッセージ】

●小さな子から若者、高齢の方、外国の方、それぞれ立場の弱い方々に心を寄せつつ、皆様が前向きに少しでも生活が明るくなりますよう祈っております。

●山陽新聞朝刊、「滴一滴」を拝見して寄付します。なかなか現地に行って支援する事は出来ませんが、決して忘れてはおりません。

●地域創造基金みやぎの皆さん、そして5団体の活動の担い手の皆さんを応援しています!

●ボランティアサークルで手作りの品を制作し販売して寄付しています。

### 【ダンス幼稚園実行委員会へのメッセージ】

●**子どもたちの笑顔、そして今だに心の傷を受けている子どものため取り組まれている姿勢に感動しました。**離れていますが東京はみんなのこと忘れていません。

●人は生まれながらにして踊る生き物だと思います。言葉にならない感情を出す回路を個人にも社会にも開いてあげられるといいですね。

●踊りや音楽は、人の心を解放する大切な方法だと思います。活動に賛同しました。

●これからの日本は彼ら(子どもたち)にかかっています。たくさん楽しいダンスで「心」を広げて下さい。

●小さい子どもたちにとっては、大きすぎる出来事だったように思われます。大人でも大変だと思いました。小さい子どもたちの悩みのためにも、応援します。

●県外アーティストと共に活動し、地域と地域をつなぐ役割を果たしているなど、ダンスを中心に色々な広がりをもった活動をしていることに感心しました。

●お話を聞きとても刺激になり、**今後の自分のあり方を考えることができました。**

●子どもが子どもらしく過ごせる場や時を過ごすことの大事さを、7才の姪と普段接していて実感しています。

●ダンスも歌でも、絵やその他の表現でも、アーティストの力を被災地の子どもたちのために生かしていただくことは、とても効果的なことなのだろうと思います。

●全てを忘れ、体を動かしたくなる。そういう楽しみのある活動に感銘しました。ぜひ“明るさ”を体に思い出させ、それを広め、周りも明るくなっていく、そういう循環の出る活動を続けてください。

●子どもたちの心は見えにくいものですが、ダンスに興じる笑顔の映像を見ますと、このようなコミュニケーション

ンが必要なのだと感じさせられました。

### 【キッズ・メディア・ステーションへのメッセージ】

●「子ども目線」こそ「未来目線」として、石巻に希望を紡ぐ人たちとの出会いや志、仕事に取り組む後ろ姿が、見えるのだと思います。立ち上がる大人たちとの対話を通じて、子どもたち記者が新しい石巻の価値や魅力を見出しけるよう、ぜひ活動を続けて下さい!

●**子どもたちが作る新聞は、分かりやすく、おもしろい。**

●自分の住むまちの良いところや課題に小さい時から関心を持って取り組める面白い活動だと思います。子どもを通じて、大人へと広がることを期待しています。

●子どもたちが作ったとは思えないクオリティの高さでした。私自身、現在、福島県の沿岸部で子どもたちが沿岸部で活動している企業にインタビューをするプロジェクトを行う予定です。お話をうかがう中で、そのヒントとなるが多々あり、目からウロコでした。

●向きあうことの大切さが理解でき、乗り越えていく力強さを身につけてくれることを期待させてくれました。この新聞を読む方も刺激を受け、新しい視点を開き、明るい未来を感じられるのではないかと思います。

●異なる年代の子どもたちが集まって1つの新聞を作るというのが、とてもユニークな取り組みだと思います。子どもにとっても意義深い体験でしょうし、**取材を受けたり、新聞を読む大人も勇気づけられる**ことが多いのではないのでしょうか。

●子どもの力を信じて、必要なスキルはしっかり提供し、新聞と一緒に作るという内容にとっても共感しました。方法や選択肢を提示すればちゃんと子どもたちは自分で考えて動くことができると思います。

●記事や写真に名前が入っているのが素晴らしい。

●子どもたちが、自分の目で現実を見つめ、文章として記録する意義ある大事な活動ですね。

●新聞づくりをする子どもたちに広い視点の社会的活動や地域でのリーダーシップにつながる活動が期待できる気が致しました。

### 【Switch へのメッセージ】

●「あたりまえの生活をとり戻すことが心のケアにつながる」という言葉が印象的でした。まちの復興はそこから始まる「長いスパン、根気的要る仕事」ともおっしゃっていましたが、本当にそうですね。

●若者の夢を未来につなぐ、少しでもお手伝いができ

れば嬉しいです。

●現在 switch さんが対峙している状況は、**宮城だけではなく、日本全国の若者の関わる共通の悩み**であると思われました。

●未来を支えていく若い方々のサポートの大切さは、数ヵ月石巻で活動していた身としてもすごく感じていたところでもありました。働きたくても働き口が…、そんなミスマッチを少しでも解消し将来に希望を持ち、それがまちづくりにつながると素敵だなと思いました。

●被災者の方から、お話を聞く機会があり、働くことは日常を取り戻すために必要なことだと感じました。

●今ここで、これからここで、暮らしていく**一人ひとりに寄りそうことの大切さ**を改めて教えられました。

●心の問題はまだまだ続きますね、仕事や学校があるから生きて行けるという言葉が心に残りました。

●自主事業で、制度の枠からこぼれてしまうような人も対象に行っていくというのが素晴らしいと思います。

●激動の復興期の活動にあって、ニーズとビジョンを適切に組み替え活動を発展させて行く姿に感動しました。

●私自身、以前インターンシップのコーディネートを担当していたこともあって、自主事業としてやっていくことを決められたのは、本当にチャレンジングで素晴らしい決断だと思います。

●「心のしんどさ」は当事者しか分からないもの。寄り添って活動をしている高橋さんに心を打たれました。

【笑顔のお手伝いへのメッセージ】

●外国人の方、特に年齢の離れた夫を持ち、一家を支えながら子育てしている方への支援は、大変意義ある活動だと思います。**外国人の方が周りにいながら見えていなかった自分にも気づかされました。**

●私は静岡県で外国人との共生に取り組んでいます。外国人も大事な地域の市民。「日本が大好き」な皆さんが、暮らし続けられるよう、浜松から応援しています！

●実は私も中国人で地震があった時に、とても慌てました。まだ日本語が話せるので、情報収集、意思判断に困ることはありませんでしたが、きっと言葉が通じない外国人は不安だったと思います。

●学生時代にフィリピンにワークキャンプで行った経験があり、日本でも在日フィリピンの方へこのような支援ができるということが分かりました。

●外国人がそんなに多いとは知らず、TV では分からなかった情報にびっくりしました。

●職場で利用者の方と話す中でも、東北に暮らす外国人妻の方のさまざまな話を聞きます。それだけ多いということだと思います。

●そもそも私は、「外国人被災者の問題」という視点自体が、ありませんでした。本当の問題がどこにあるのかは、文化や習慣の違いを超えて話し合い、ようやく問題が見えて来るのだと思い知らされました。

●**少数派であってもまちの一員です。**端の方でもこぼれ落ちている人がいると町は暗さを持ち続けます。暗さが消え明るくなり、生きる力強さ、結束力や助け合いが生まれる世の中となるよう切に願っております。

●東北地方というとてもローカルな場所でも、(だからこそ)国際結婚等に由来するとてもグローバルな問題がある、ということを再認識しました。

●制度の枠ぐみ、世間の偏った常識からこぼれてしまいがちな方々のサポートは何より心に添うものだと思います。当たり前の「笑顔」が生まれるよう、応援しています。

【亘理いちごっこのメッセージ】

●**最終的な解決を「現場から」立ち上げている姿勢、共感しましたし、頭が下がる思いです。**

●東京新聞で見て。いちごっこの HP はよく見えています。

●地域のつながりは決して被災地だけの問題ではなく、これからの日本全体の問題として、捕らえる必要があると感じています。その中で、年代にあわせた“つながり”をつくられているところが素晴らしいと感じました。

●地元の方が、話を聴きに行くというのは、とても大切だと思います。何度も来てくれる人、なじみのある人にしか話せないようなこともあるはずです。

●父の故郷が福島の新地町です。近くでこうした活動をされているのは、本当に心強いです。

●改めて、**復興はお金や政治ではなく、一人ひとりの“ヒト”が行っているのだと感じました。**私は東京に在住する 28 歳の会社員ですが、私のまわりでは、震災が過去の事のような空気すらできてしまっています。このような多くの団体が今もがんばっている事や、少しでも伝えて行きたいと思います。

●同じ体験を持つ方どうしの「触れ合い」を大切にしていってほしい話、素晴らしいと感じました。

●ニーズ、課題は時と共に変化し多様化していくもの。いちごっこの活動は柔軟に支援の形をつくれる、市民団体ならではの長所を持っていると思います。

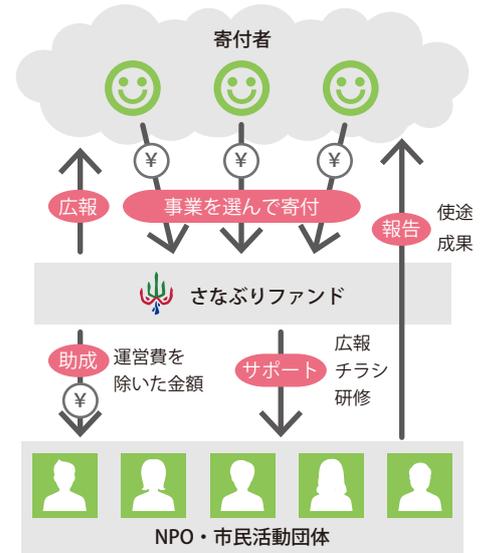
●私の家族が被災しみなし仮設にりましたが、誰にも打ち開けることができず、悩んでいたことを思い出しました。絶対に意義があることなので、是非続けて下さい。

●**行政の目の届かないところ、手の届きにくいところ**に、細やかな支援をなさっているのですね。活動がこれほど多岐にわたりながら細やかな配慮で、継続なさっていること、本当に素晴らしいと思います。

## あづめっちゃんにおける、さなぶりファンドの役割

### 1. 寄付の受け付け・決済

寄付金を受け付けるための専用銀行口座、郵便振替口座を開設した他、クレジットカードによる寄付決済の環境を整え、参加団体に提供しました。また、インターネット上で支援者を集めるクラウドファンディングプラットフォーム「モーションギャラリー」でも寄付を受け付け。様々な入金方法に対応できるようサポートを行いました。



### 2. 広報のPRのサポート

より多くの方にあづめっちゃんの取り組みを知っていただくため、あづめっちゃん全体でのPRや、各団体ごとのPRの機会も設けました。

- ・ラジオやテレビ、新聞などメディア露出の機会を提供
- ・仙台市内のロータリークラブ（9カ所）でのPR活動
- ・情報通信系企業・団体の会合（Selexフォーラム）などでの講演活動
- ・東京3カ所、仙台1カ所でイベントを開催。参加団体と様々な応援者がつながる機会づくり（P.12に詳細）
- ・各団体のストーリーを掲載した寄付カタログ制作（3,000部）
- ・各団体ごとの寄付呼びかけチラシ制作（A4両面・6種類）
- ・仙台・東京でのイベントチラシ制作（A4両面・3種類）
- ・寄付カタログや寄付特典を送付するための、専用封筒制作
- ・さなぶりファンドウェブサイト内に、専用ウェブページを作成
- ・ウェブサイト、フェイスブック、ツイッターなどで、各団体やあづめっちゃんの活動状況をお知らせ



ロータリークラブでのプレゼンテーション



ラジオ（Date FM）でのラジオ収録



編集者・赤羽氏を招いた文章講座

### 3. 各種研修の機会を提供

様々な研修を通して、寄付集めに必要なスキルの向上を図りました。編集者の赤羽博之氏を講師に招いた「寄付を集める文章の書き方」講座では、相手に分かりやすく気持ちを伝えるための文章を学びました。また、プレゼンテーションの研修では、ラジオへの出演を仮定し、自分の団体の活動を簡潔に伝える練習をしました。それぞれの活動紹介を聞き、参加者同士で良い点・改善点についての意見を出し合いました。自分の団体の活動を客観的に見直す機会にもなったようです。その他、インターネットを利用したPR方法について学ぶ研修も実施しました。

### 4. 寄付者情報の管理や領収書の発行をサポート

各団体の寄付額の管理、寄付特典の送付、領収書の発行などを行いました。さなぶりファンドが一括して寄付を受領、必要な事務処理をサポートしました。

### 5. 報告書の作成

あづめっちゃんは、たくさんの寄付者や協力者の想いにより実施できました。皆さまからの寄付や応援がどのように生かされたかをお知らせするため、この報告書を発行しました。報告書は、ウェブサイトからもご覧いただけます（<http://www.sanaburifund.org/support/azm/>）。



寄付カタログ

## 🧩 イベント報告

東京や仙台でイベントを開催し、参加者と対話しながら被災地の課題や取り組みを伝えました。参加者からは「現地の話を直接聞くことができ、想いが伝わった」「これからも東京で、自分ができることで応援し続けたい」などの感想も。参加団体にとっても、応援者とのつながりが増えたことで、活動の励みになりました。

2013年5月10日 東京都開催

被災地みやぎの「いま」と出会い、つながる一日～現場で奮闘する5人の物語～

各団体とイベント参加者との意見交換が盛り上がり、予定時間を超えて議論が続きました。参加者には名取市の復興カーネーションをお持ち帰りいただきました。

会場：地球環境パートナーシッププラザ

協力：地球環境パートナーシッププラザ

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター



2013年5月11日 東京都開催

被災地みやぎの「いま」と出会い、つながる一日～現場で奮闘する5人の物語～

当日朝のラジオ番組での告知を聞いて駆けつけた参加者も数人いました。ゆったりした空間と進行で、各団体とイベント参加者がじっくり話すことができました。

会場：東京大学弥生講堂アネックス セイホクギャラリー

協力：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター

運営協力：Art of Hosting in Japan 有志



2013年5月10日・11日 東京都開催

共奏キッチン<さなぶり編>

参加者が協力して食事をつくり、語り合う「共奏キッチン」にお邪魔し、あづめっちゃと団体の活動について紹介しました。

会場：三田の家

協力：Art of Hosting in Japan 有志



2013年5月13日 宮城県開催

あの日から3年、いまを知り、つながる夜～宮城で復興に取り組む5人と酒造の物語～

宮城県を代表する酒造「一ノ蔵」の浅見代表取締役名誉会長に、震災被害からの復興物語をお話いただきました。地元宮城にける想いを参加者と話し合いました。

会場：仙台市情報・産業プラザ

特別ゲスト：浅見紀夫氏（株式会社一ノ蔵 代表取締役名誉会長）

協力：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター



## 🧩 メディア掲載

2013年3月8日	J-WAVE 「COME TOGETHER」	2013年5月10日	NHKラジオ第2 「ラジオあさいちばん」
2013年3月8日	河北新報	2013年5月13日	河北新報
2013年3月28日	東北電力 東日本大震災 復興情報レポート (WEB)	2013年5月20日	ミヤギテレビ 「OH!バンドス」
2013年4月8日	ラジオ3 「せんだい復興日記」	2013年5月22日	宮城県復興応援ブログ 「ココロプレス」
2013年4月23日	Date FM 「Hope for MIYAGI」	2013年5月23日	東京新聞
2013年5月9日	山陽新聞	2013年5月31日	毎日新聞 他



## 会計報告

寄付額に対する助成金と事業実施費の内訳です。事業実施費は、イベント開催費やカタログの制作・発送費などに使用しました。不足した事業実施費は、自主財源および公益財団法人日本国際交流センターからの助成金を活用しました。

寄付金収入	2,166,352 円
内、助成金充当額	2,014,000 円
内、事業実施費	152,352 円

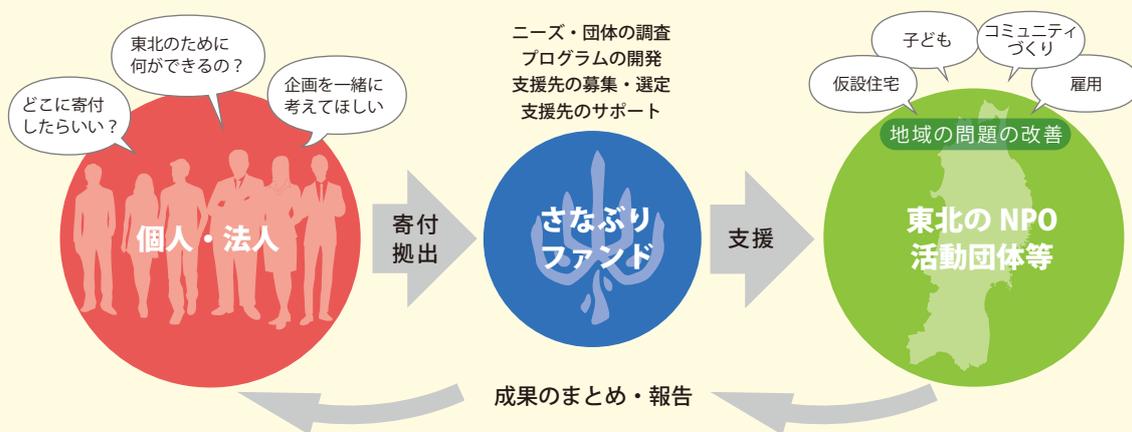
## 協力 (順不同・敬称略)

- ・ 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター
- ・ 地球環境パートナーシッププラザ
- ・ 公益社団法人 仙台青年会議所
- ・ 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォームを  
通じて支援を受けている富士ゼロックス株式会社の  
複合機で、チラシなどを印刷しました
- ・ 株式会社 一ノ蔵
- ・ Art of Hosting in Japan 有志

## さなぶりファンド (一般財団法人地域創造基金みやぎ) とは



地域創造基金みやぎは、東日本大震災からの復興に向けた活動を「支援したい」国内外の個人や企業等と、「支援を必要としている」NPO や市民団体等の、資金を中心とした橋渡しをしています。



### 資金仲介

#### こども☆はぐくみファンド

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン様との協働事業  
対象地域：岩手県、宮城県、福島県 対象事業：0～18歳の親子支援活動

#### ジャパンソサエティ 東日本大震災復興基金 (ローズファンド)

英国 ジャパン・ソサエティ様との協働事業  
対象地域：岩手、宮城、福島 (一部山形) 対象事業：復興支援活動全般

#### フクシマ スムプロジェクト 福島子ども支援 NPO 助成

サントリーホールディングス株式会社様と  
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン様の協働事業を実施  
対象地域：福島県と県外避難者居住地域 対象事業：0～18歳の親子支援活動

#### 三菱重工 みやぎ・ふくしまミニファンド

三菱重工業株式会社様との協働事業  
対象地域：宮城県、福島県 対象事業：コミュニティの場創設支援等

### 主催募金キャンペーン

#### 東北のお正月を応援プロジェクト (2012年7月実施)

岩手・宮城・福島県の仮設住宅等におけるお正月準備のための寄付を募集。  
寄付総額：1,083,000 円 寄付件数：68 件 助成事業：8 事業

#### 志津川タコ復興プロジェクト (2012年7月実施)

宮城県南三陸町志津川地区のタコ漁にかかる経費支援のため寄付を募集。  
寄付総額：2,352,500 円 寄付件数：134 件

### 創業支援

#### 中小企業庁「創業補助金 (創業促進補助金)」

起業・創業、第二創業に際する経費の一部を補助。独立行政法人中小企業基盤整備機構からの委託に基づき、岩手・宮城・福島の事務局を運営。



2013年5月11日開催 被災地みやぎの「いま」と出会い、つながる一日 in 東大弥生講堂



2013年5月10日開催 被災地みやぎの「いま」と出会い、つながる一日 in 青山



公益社団法人仙台青年会議所にて。あづめっちゃのPRにご協力いただきました



2013年5月13日開催 あの日から3年、いまを知り、つながる夜 (仙台) (株)一ノ蔵 浅見紀夫代表取締役名誉会長 (写真・一番右) がゲスト登壇



イベントでは、参加者から被災地の現場で奮闘する参加団体へたくさんの応援メッセージをお寄せいただきました

## あづめっちゃん第2期 実施決定！

あづめっちゃん第2期の実施が決定しました。第1期の経験を生かし、さらにパワーアップしたあづめっちゃんをお見せしたいと思っておりますので、ご期待くださいませ。詳細が決まり次第、さなぶりファンドのホームページ (<http://www.sanaburifund.org>) 等でお知らせします。第2期のあづめっちゃんも、どうぞよろしくお祈りします！

### あづめっちゃん 第2期 (予定)

テーマは第1期に引き続き「幼児・子ども・若者・中高年・高齢者」の5つ(予定)。それぞれの世代がどんな課題を抱えているのかを可視化し、解決するための活動に取り組んでいる団体への寄付と支援を募ります。たくさんの「つながり」が生まれる機会づくりとして、東京や仙台でのイベント開催も予定しています。

## 発行・お問い合わせ

一般財団法人 地域創造基金みやぎ(さなぶりファンド) 2014年3月発行

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-2-23 桜大町ビル303

TEL: 022-748-7283 FAX: 022-748-7284 MAIL: [info@sanaburifund.org](mailto:info@sanaburifund.org)

URL: <http://www.sanaburifund.org> フェイスブック: <http://www.facebook.com/sanaburifund>



**The Sanaburi Foundation**